

近況報告

— 志願者確保について —

国立奈良工業高等専門学校

教務主事 桐川 修

今年度から中村善一先生（75E）のあとを受けて教務主事を務めています桐川です。74Eですので電気工学科6期生です。教務主事の仕事はその名のとおり教務関係全般ですが、最近ではそれ以外に『志願者確保』も重要な仕事のひとつとなっています。

ご承知のように日本全体で『少子化』がすすみ、子供の数が減少の一途をたどっています。高専が対象とする中学卒業生は、日本全体で見るとこの20数年で約198万人（平成2年）から119万人（平成25年）と、約40%も減少しています。奈良県でも中学卒業生23,900人（平成元年）から13,900人（平成25年）と同じく約40%の減少を示しています。このような状況の中で県立高校については再編・統合がおこなわれた結果、全日制43校が現在では32校にまで集約され、入学定員も40%減となっています。

一方、奈良高専は昭和61年の情報工学科増設以来、入学定員は5学科200名を維持しています。したがって従来どおりの対応ではなかなか優秀な志願者を確保することが難しくなってきました。そのため現在では全教員が奈良県内だけでなく、近畿地方各府県の中学校に出向き、奈良高専のPRそして多くの志願者を送ってもらうよう働きかけています。また本校で体験入学、入試&学校説明会などを開催したり、各地区でおこなわれる塾や中学校主催の説明会に参加したりして積極的に宣伝活動をおこなっているところです。教職員によるこのような努力のおかげで、他の国立高専で定員割れとなっているところもある中、奈良高専の入試倍率はここ数年1.8～1.9倍で推移しています。目標として2.0倍を掲げていますので、もう少し努力を傾けなければなりません。

この『優秀な志願者の確保』につきましてぜひ皆様にもご協力いただければと思っています。具体的にはお子さんはじめご親戚のかたがた、さらに職場等お近くのみなさまに、高校進学の際には奈良高専もその選択肢のひとつに加えていただきますようお願いいただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。